

令和4年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立明生小学校

I

学校教育目標

『地域とともに明るく元気に生きる明生の子』

めざす学校像

『明るい笑顔と活気あふれる学校』

II 学校経営基本方針

- ・教職員の和を基本理念に、「チーム明生」で学校教育目標の達成に取り組む。
- ・校内研修の充実やOJTの活発な展開を通して、授業力の向上を図る。
- ・人権教育を推進し、「思いやりがあり、仲間を大切に作る集団づくり」に努める。
- ・家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣を築く中、学力・体力・道徳心を育成する。
- ・教育活動の充実に向け、コミュニティ・スクールを推進する。

III 中長期的目標と本年度の行動計画

- 1 教職員の和を基本理念に、「チーム明生」で学校教育目標の達成に取り組みます。
- 2 校内研修の充実やOJTの活発な展開を通して、授業力の向上を図ります。
- 3 人権教育を推進し、「思いやりがあり、仲間を大切に作る集団づくり」に努めます。
- 4 家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣を築く中、学力・体力・道徳心を育成します。
- 5 教育活動の充実に向け、コミュニティ・スクールを推進します。

1 【教職員集団の和を醸成と教職員の総勤務時間の縮減】

- (1) 職員同士でのOJTの活性化，何でも言い合える職員集団を醸成
(子どものこと，授業のこと，クラスのこと)
- (2) 設定した日の定時に退校できた職員の割合⇒90%以上を目指す
- (3) 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合⇒70%以上を目指す
- (4) 年360時間，月45時間を超える時間外労働者⇒0人を目指す
- (5) 1人当たりの月平均時間外労働時間⇒30時間以下を目指す
- (6) 1人当たりの年平均休暇取得の目標日数⇒22日を目指す

2 【確かな学力・体力】

- (1) 教師力の強化
 - ・授業力UP5を必ず自分の授業に落とし込む
 - ・公開授業を全教員で実施
 - ・教材・教具の工夫，めあてと振り返りの方法を重視した授業づくり
 - ・適用問題を有効活用した授業の実施
 - ・ICT機器の有効的，効果的な活用
 - ・研修会への講師招聘やOJTの活発な展開
- (2) 強み・弱みの分析

- ・「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析と改善に向けた取組（全教科で全国・県平均以上を目指す）
 - ・「三重の学－V i v aセット」や「ワークシート」の積極的な活用
 - ・「モジュール学習」を活用した繰り返し練習や確認テストの実施
 - ・「体力テスト」の分析と改善に向けた取組
 - ・児童・保護者へのアンケート実施
- (3) 家庭学習の定着
- ・「生活習慣チェックシート」を活用した家庭との連携
 - ・毎日の宿題見直しを徹底
 - ・自主学習ノート（「明生ノート」）の定着
 - ・「家庭学習のてびき」の保護者配付や懇談会での働きかけ
- (4) きめ細かな指導体制
- ・T Tや少人数・習熟度別、個別の取り出し等の多様な学習形態の導入
 - ・支援の必要な児童の把握と課題の洗い出し
 - ・I C T機器を活用した主体的な学習展開
 - ・実習や作業を伴う学習への学習支援ボランティアの活用
- (5) 「すずか夢工房」やゲストティーチャーによるキャリア教育の充実
- (6) 読書環境の充実
- ・6年生児童，教師，ボランティアさんの読み聞かせや朝読による読書習慣の定着
 - ・家庭と連携した読書活動の推進
- (7) 小中連携による学力向上

3 【インクルーシブな学校作り】

- (1) コーディネーターを軸とした支援体制の構築
- ・介助員や支援員、学習ボランティアの効果的な配置
 - ・情報交換（スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター等）
- (2) 支援会議や判定会議の開催
- ・学期ごとの見直し
 - ・関係機関との情報交換や対応
- (3) 「すずかっ子支援ファイル」と「バンドスケール」の作成・活用

4 【生徒指導】

- (1) 組織的な生徒指導体制の構築
- (2) 引き渡し訓練や防犯訓練（不審者対応），万引き防止教室，交通安全教室，薬物乱用教室，携帯電話講座等の実施
- (3) 「いじめ0」に向けた早期発見・早期対応，いじめ調査の実施（年3回以上）
- (4) 教職員一丸となった不登校対策
（校内支援会議での子ども情報の共有）
（スクールライフサポーターやスクールカウンセラー，教育支援課や子ども家庭支援課との連携を強化）
- (5) 問題行動の未然防止

- (6) 挨拶運動の強化（「おはよう」声掛け等）（児童会活動での取り組み）
- (7) 時間いっぱい清掃の徹底
- (8) 安全点検の実施と改善

5 【開かれた学校】

- (1) 地域や保護者への情報発信
 - ・ 学校通信や学校ホームページ，配信メール等を使った情報発信
- (2) ボランティアの有効かつ積極的な活用と連携
 - ・ 主任児童委員や民生委員からの支援
 - ・ 地域コーディネーターとの協働
- (3) 学校運営協議会の開催
 - ・ 計画的な開催と運営運用
 - ・ 教育活動の進捗状況のチェック
- (4) 学校行事への参加率のアップ
- (5) 学級懇談会や各委員会，会議での活発的な意見交換
- (6) 小中連携推進とゲストティーチャーによる体験活動の実施
- (7) 地域・保護者との協働による清掃活動（年 2 回以上）